

225 オプション取引の簡単な仕組みを解説したいと思います。
なるべく分かりやすく書いたつもりですが、ご不明な点がございましたらご連絡下さい。
また多少細かいところは実際と違いますが、そう影響はないのでご了承下さい。
今回は、売りについて重点的に解説していきます。

まずは、大証のホームページでどのような取引なのかをご覧ください。
http://www.ose.or.jp/futures/fu_opko.html

225 オプション取引の仕掛け

大きく分けてコールとプットという2つの銘柄があります。

仕掛ける値段は日経平均を基準として500円刻みです。

それぞれ買いと売りが出来ます。ここまでは株と同じです。買いと空売りが出来るのと同じことです。

売買の期限が一ヶ月単位で決まっています。株のように持ち続けることは出来ません。

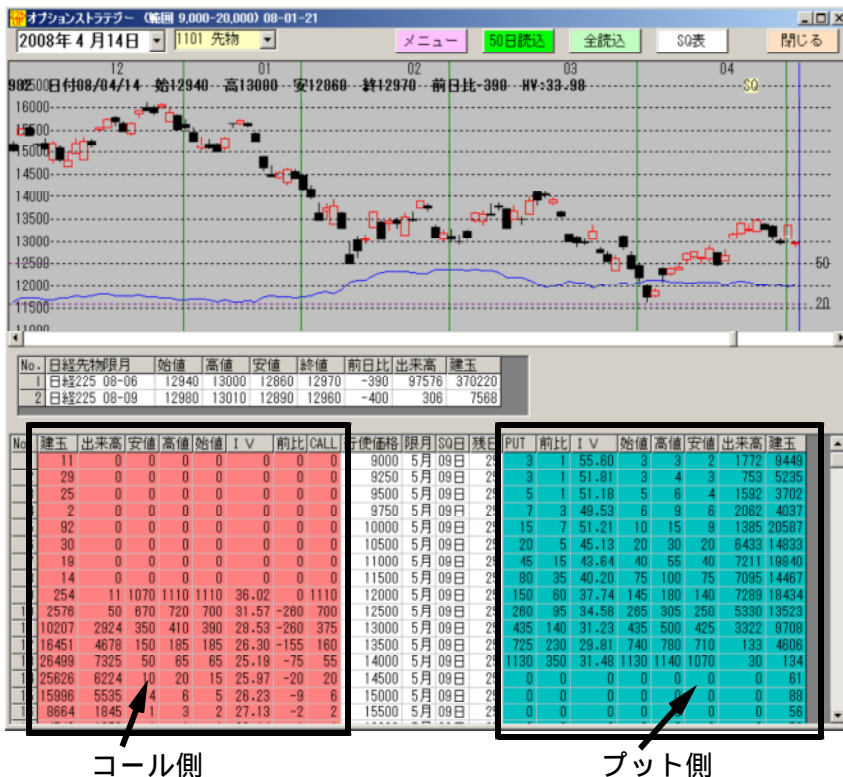
組み合わせですが、以下4つしかありません。

1. コールの買いは、日経平均が上がったら儲かる
2. コールの売りは、日経平均がある水準(価格)以下であれば儲かる
3. プットの買いは、日経平均が下がったら儲かる
4. プットの売りは、日経平均がある水準(価格)以上であれば儲かる

ここで、コールの買い=株の買い、プットの買い=株の空売りと同じことです。

少しやっかいなのは、コールの売り、プットの売りです。
これを解説していきます。

弊社製の225 オプションソフトでは以下のように表示されます。



コール側

プット側

売りの解説

コールの売り、プットの売り、の基本は日経平均がS Q日にここまでこないだろうという所を売ります。

先程、期限が一月ごとにあると書きましたが、この最終期限日をS Q日といいます。S Q日は毎月第2金曜日です。そのとき、決済する基準となる価格（日経平均を構成している225銘柄全ての寄り付きから算出）をS Q値といいます。

今日は4/14、日経平均は、12918円です。

例えば、S Q値が11500円まで下がらないとみたら、11500円のプットを売ります。これを「115プット売り」といいます。

11500円はおよそ2500円下です。

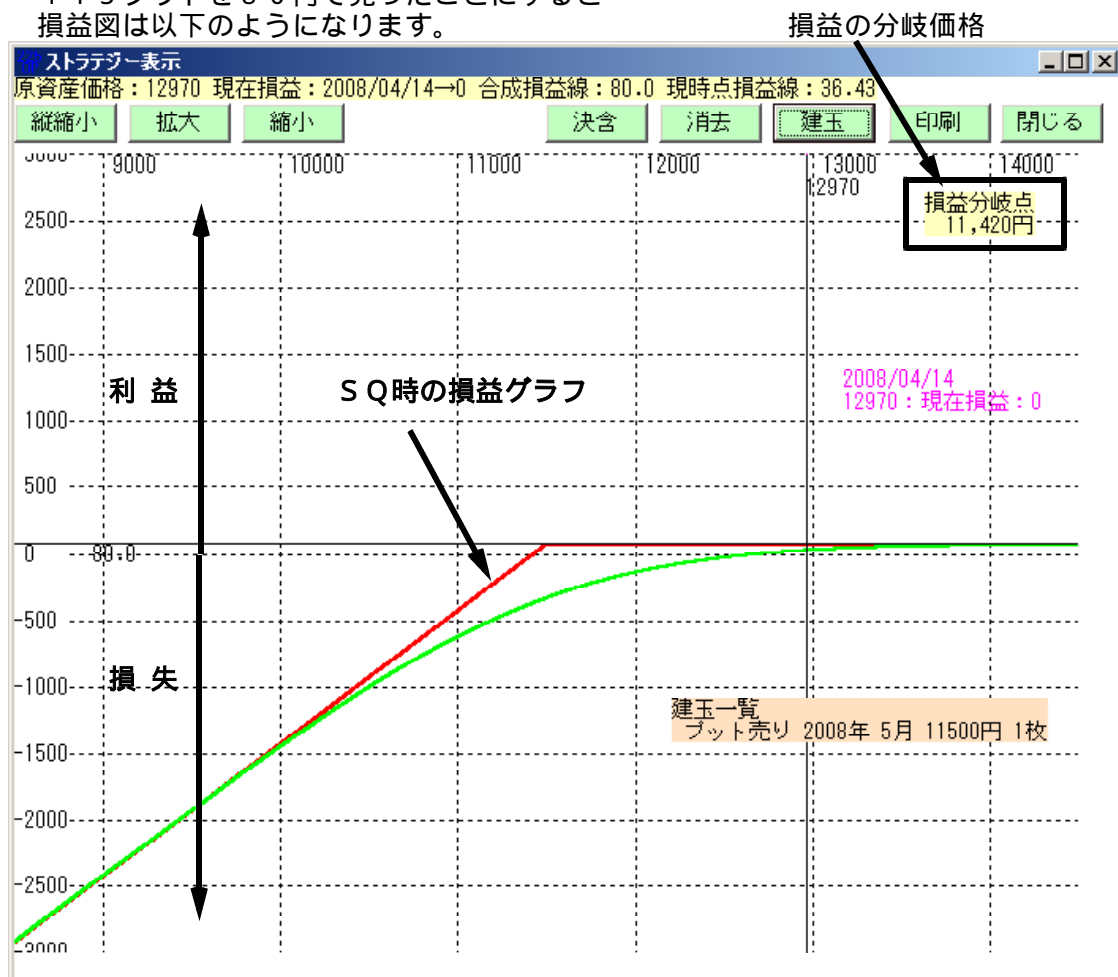
もうこれ以上、日経平均が下がらないと思ったポイントを売る、これがプットの売りです。つまり、日経平均の下値、下限を決めるのがプットの売りです。

115プットは80円です。この価格で売ったとすると、口座へ80円×1000=8万円が入金されます。買いの場合は口座から出て行きます。逆になります。

オプションの1単位は1000です。

S Q値が11500円以上であれば、総取りです。8万円儲かります。

115プットを80円で売ったことにすると
損益図は以下ようになります。



細かい部分を抜きにして、

S Q値が11420円より上だったら、利益、
11420円以下だったら、損失です。

例．SQ値での決済

SQ値が11500円以上(12500円、12000円とか)だった
総取り、80円 8万円の儲け

11450円だった $11450円 - 11500円 = -50円$ 、5万円の損失
仕掛けたときに入金された8万円がありますので、 $8万 - 5万 = 3万円$ の儲け

11400円だった $11450円 - 11500円 = -100円$ 、10万円の損失
仕掛けたときに入金された8万円がありますので、 $8万 - 10万 = 2万円$ の損失

11500円のプットを仕掛けたので、この時点で日経平均は11500円はないとみたわけです。実戦では相場が予想に反して、どんどん下がって来た場合、早めに手仕舞いします。損切りであろうとも。目論見がはずれたということですから、いつまでも11500円にこだわってはいけません。

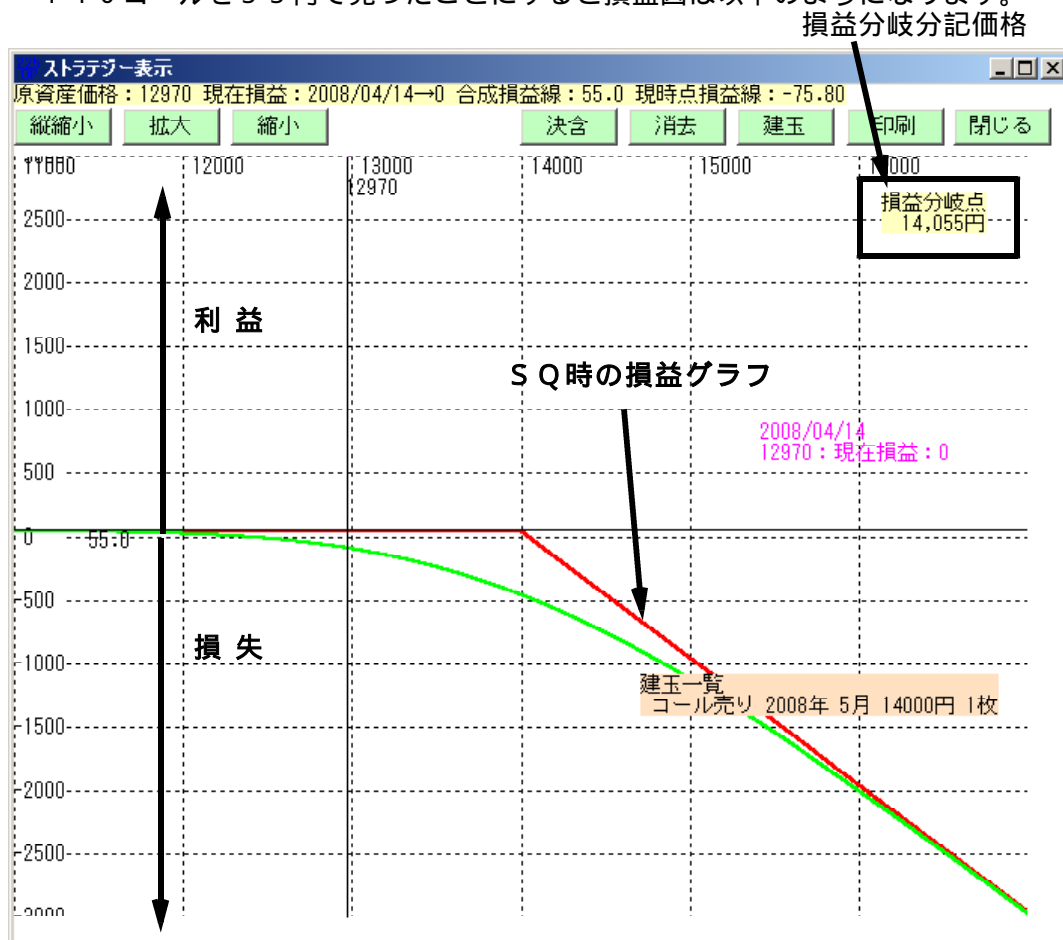
コール売り

プット売りとは逆です。上値、上限を決めます。14000円はこないとみたら、今からおおよそ1000円上である14000円のコールを売ります。これを140コール売りといいます。

140コールは55円です。この価格で売ったとすると、口座へ $55円 \times 1000 = 5万5千円$ が入金されます。

SQ値が14000円以下であれば、総取りです。5万5千円儲かります。

140コールを55円で売ったことにすると損益図は以下のようになります。



損益分岐点の範囲、11365円～14135円であれば利益です。
この範囲をオーバーすると損失となります。

その他

反対売買である買い返済は、いつでも出来ます。

よって途中で利食ってもヨシ、損切りも可能です。何が何でもSQまでという考えではありません。

一度仕掛けたら、SQまでずっと持っていなくてはいけない、ということではありません。

皆様は、5月第2金曜日(5/9)のSQ値がどのくらいの範囲におさまると思いますか？

ここで重要なのは、当てる必要はない、ということです。

だいたいこの辺だろうと構わないのです。ここがオプションの強みです。

先物、株を買ったら、買値より上がらないと儲かりません。売ったら、下がらないと儲かりません。

オプションは、ある程度の値幅を持たすことができますので、

11500円こないとみたら、115プットを売ります。

今日経平均は13000円弱ですが、これが12500円まで下がってきても、

11500円ピッタリでも、逆に相場が上昇して13500円でも利益なのです。

全て総取りです。

先物だったら、必ず13000円より下にならないと儲かりません。

証拠金について

225オプションを売るには、あらかじめ証券会社が指定する金額を入金しておかなと取引は出来ません。これを証拠金、維持証拠金などといいます。

売りの口座を維持するために必要な金額といったところです。

これは証券会社によってまちまちですが、50万円とか、スパン方式の4割増しとか様々です。

それでは実際に仕掛けた場合、いくら必要なのでしょう？

115プットを80円で売った場合はいくらでしょう？

これが売りではなく、買いであれば、80円、つまり8万円です。買いの場合は株を買うのと同じ考えです。

この売りに必要な値段を決める算出方法とをスパンと呼びます。スパン方式といわれるものです。

こちら証券会社によってまちまちで、スパン方式そのもの、つまり100%のところやスパン方式の2割増し、120%のところなどがあります。

今回は、トレーダーズ証券のスパン算出プログラム(エクセルファイル)を用いてみます。こちらにあります。トレーダーズ証券はスパン100%です。

http://www.traderssec.com/invest/nikkei225/225_span.html

スパンで算出される値段は毎日変化します。よって毎日証拠金がいくらになっているかを気にしてないといけません。

相場が上昇した場合、コールの売りは証拠金上がり、プットの売りは下がります。

相場が下降した場合、コールの売りは証拠金下がり、プットの売りは上がります。

相場にそう値動きがない場合、証拠金はコールの売り、プットの売り共に下がります。

115Pを1枚売る。
 売りの場合はマイナスを付けて入力します。1枚売りなら「-1」です。
 下の表から30万5690円必要だということが分かります。

Microsoft Excel - keisan2008-04-14.xls

2008/4/14

建て玉数	SPAN Risk	Net Option Value
1枚	230,700	-74,990

SP増減額	取引商証金	100% 証金(弊社証金)	ネットデルタ
0	¥305,690	¥305,690	0.116

「枚数」欄に枚数をご入力下さい。またミニ先物は1枚-「0.1」とし過算して下さい。例) 5枚買い=「5」 5枚売り=「-5」 ミニ先物1枚買い=「0.1」

満期	期月	行先	枚数	SpanRisk	Net Opt Value	デルタ
先物	6					
先物	9					

IV	デルタ	Net Opt Value	SpanRisk	枚数	満期	期月	行先	満期	満期	枚数	SpanRisk	Net Opt Value	デルタ	IV
				-1枚	C	5	11,000	5	P		230,700	-74,990	0.116	38.51%

コール側

プット側

140Cを1枚売る。こちらは34万8200円です。

Microsoft Excel - keisan2008-04-14.xls

2008/4/14

建て玉数	SPAN Risk	Net Option Value
1枚	296,800	-51,400

SP増減額	取引商証金	100% 証金(弊社証金)	ネットデルタ
0	¥348,200	¥348,200	-0.132

「枚数」欄に枚数をご入力下さい。またミニ先物は1枚-「0.1」とし過算して下さい。例) 5枚買い=「5」 5枚売り=「-5」 ミニ先物1枚買い=「0.1」

満期	期月	行先	枚数	SpanRisk	Net Opt Value	デルタ
先物	6					
先物	9					

IV	デルタ	Net Opt Value	SpanRisk	枚数	満期	期月	行先	満期	満期	枚数	SpanRisk	Net Opt Value	デルタ	IV
25.64%	-0.132	-51,400	296,800	-1枚	C	5	11,000	5	P					

115 プットと140 コールを売る。

42万3990円です。

コールとプットを別々に売った場合の合計より安くなっています。

これがスパン方式の魅力です。コールとプットの両方売るということは、バランスがよいということになり、証拠金も安くなるという理屈です。

Microsoft Excel - keisan2008-04-14.xls

2008/4/14

建て玉数	SPAN Risk	Net Option Value
2枚	297,600	-126,390

SP増減額	取引所証拠金	100% 証拠金(弊社証拠金)	ネットデルタ
0	¥423,990	¥423,990	-0.016

「枚数」欄に枚数をご入力下さい。またミニ先物は1枚-「0.1」とし過算して下さい。例) 5枚買い = 「5」 5枚売り = 「-5」 ミニ先物1枚買い = 「0.1」

種類	期月	枚数	SpanRisk	Net Opt. Value	デルタ
先物	6	-	-	-	-
先物	9	-	-	-	-

IV	デルタ	Net Opt. Value	SpanRisk	枚数	種類	期月	行使価格	期月	種類	枚数	SpanRisk	Net Opt. Value	デルタ	IV
						C	5	11,000	5	P				
						C	5	11,500	5	P	-1枚	230,700	-74,990	0.116
						C	5	12,000	5	P				
						C	5	12,500	5	P				
						C	5	13,000	5	P				
						C	5	13,500	5	P				
25.64%	-0.132	-51,400	296,800	-1枚		C	5	14,000	5	P				
						C	5	14,500	5	P				

外側に買いを入れると

115 プットと140 コールを売ると同時に110 プットを1枚買い、145 コールを1枚買い、も同時に仕掛ける。

このときの必要証拠金は16万9240です。さらに安くなりました。

これは、損失が限定されたためです。

Microsoft Excel - keisan2008-04-14.xls

2008/4/14

建て玉数	SPAN Risk	Net Option Value
4枚	102,400	-66,840

SP増減額	取引所証拠金	100% 証拠金(弊社証拠金)	ネットデルタ
0	¥169,240	¥169,240	-0.025

「枚数」欄に枚数をご入力下さい。またミニ先物は1枚-「0.1」とし過算して下さい。例) 5枚買い = 「5」 5枚売り = 「-5」 ミニ先物1枚買い = 「0.1」

種類	期月	枚数	SpanRisk	Net Opt. Value	デルタ
先物	6	-	-	-	-
先物	9	-	-	-	-

IV	デルタ	Net Opt. Value	SpanRisk	枚数	種類	期月	行使価格	期月	種類	枚数	SpanRisk	Net Opt. Value	デルタ	IV
						C	5	10,500	5	P				
						C	5	11,000	5	P	1枚	40,600	41,410	-0.066
						C	5	11,500	5	P	-1枚	230,700	-74,990	0.116
						C	5	12,000	5	P				
						C	5	12,500	5	P				
						C	5	13,000	5	P				
						C	5	13,500	5	P				
25.64%	-0.132	-51,400	296,800	-1枚		C	5	14,000	5	P				
26.22%	0.057	18,140	18,100	1枚		C	5	14,500	5	P				
						C	5	15,000	5	P				
						C	5	15,500	5	P				

少し難しくなりましたが、コールとプットをバランス良く仕掛けて、損失を限定させる。そうすると証拠金は少なく済むとお考え下さい。

ご要望とあらば、また折を見て続編を投稿する予定です。